



# カトリック六甲教会 教会報

2014

5

No.509



## 「聖母の訪問」と「聖体訪問」

ダニエル・コリンズ神父

みなさんご存知のように、5月は聖母の月、5月31日は聖母の訪問の祝日です。大天使ガブリエルから受胎告知された時、親類エリサベトも身ごもって6ヶ月であることを知らされたマリア様は、ご自身も身重でありながら、どうしてわざわざ遠く離れた土地にいるエリサベトを訪問されたのでしょうか。



マリア様はご自身に伝えられたお告げもさることながら、長年子宝に恵まれず、もはや老境にいるエリサベトが懐妊したという事実を知り、さぞや驚嘆されたことでしょう。と同時に、エリサベトの心境に思いを寄せ、自分のことのように嬉しく思われたにちがいないでしょう。社交辞令などではなく、本当に心から嬉しかったからこそ、すぐさまエリサベトのもとへ急がれたのでしょうか。

二人ともほぼ時を同じく懐妊し、しかも二人とも初めての子を授かったのです。マリア様はエリサベトに会って、ただただその喜びを分かち合いたかったのでしょうか。また、これから先の未知のことから対する多くの不安や心配についても、共に話したかったのではないのでしょうか。私は、その訪問の目的は、ただ話すということだったと思います。

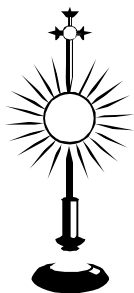
私がかつて六甲学院で教鞭をとっていた頃、生徒たちは学校の行き帰りの途中、教会に立ち寄り、聖体訪問をしていたものでした。今はそのような姿をみかけることはありません。残念なことに、これは生徒だけに限ったことでもありません。

生徒たちは学校で先生に言われたから、義務感から聖体訪問をしていたのでしょうか。実際初めはそうだったかもしれません。しかし、聖体訪問を霊的な目的、信仰上の意義といった風に難しく考えていたのなら、それも長続きはしなかったことでしょう。

生徒たちは、マリア様がただただ話をしたくてエリサベトを訪問されたように、ただただ神様と話がしたくて聖体を訪問していたのではないのでしょうか。その日あった喜び、嬉しさ、また日々の不安や心配事、さまざまなことを神様に正直に、ありのままに話していたのではないのでしょうか。両親や先生、友達にはなかなか言えないことも、神様には恥ずかしがらずに話せたのではないのでしょうか。

直面するものごとについて神様に話しかけることは、自分でも気づかないうちに、ありのままの自分を知ることにもつながります。私自身も子どもの頃からの聖体訪問のおかげで成長することができたと思っています。

みなさんも、感謝や願いを伝える、ゆるしを乞うという風に堅苦しく考えずに、ただ神様と話をするという目的で聖体訪問してみても良いでしょう。ただ話しかけて、静かに待っていれば、神様から返事は必ず返ってきます。そこに神様がいらっしゃるのですから。



## 新任司祭からのごあいさつ

主任司祭 アルフレド・セゴビア



六甲教会の皆さん、ご復活おめでとうございます。

私たちが“主が生きておられる”ことの喜びを実感し、伝えていくことができますように。

このたび、六甲教会に派遣されてきて、3週間あまりたちました。温かく迎えられて、嬉しく思っています。皆さんが築いてきた共同体の中に入れていただける喜びと希望に包まれています。

これからの六甲教会の歩みにわたしは何ができるか、不安ですが、皆さんと力を合わせて、一緒に考え、一緒に祈り、一緒に行動できるようにしたいと思います。

この場を借りて、ひとつお願いがあります。今まで六甲教会と関わりがなかった私は、皆さんと会ったり話したりしたいので、是非その機会を作っていただきたいと望んでいます。普段、教会にいますので、いつでも時間が許す限り、来ていただければ幸いです。特別に話したいこと、相談したいことがなくても構わないので、どうぞ遠慮なくお訪ねくださるようお願いします。

最後に、六甲教会の共同体が、神の素晴らしさと信仰の喜びを多くの人に届けていけますように、一緒に歩んでいきたいと願っています。私のためにもお祈りください。



助任司祭 高山 親

関西に来て 10 年がたちます。そして、8 年ぶりの六甲教会、小教区の司牧となります。8 年の歳月はとても長く、子供たちが大きくなっているのに驚きます。小学生だった子供が青年になり、当時リーダーだった若者が結婚し、家庭を作り、教会に来ている。成長を目の当たりにし、とても嬉しく感じています。

私は、この 8 年間、釜ヶ崎の旅路の里での司牧をしながら、福音の光修道会ベトナム支部設立のお手伝いをしていました。現在では 49 名が所属しています。また、日本の修道会の召命のあっせんもしていました。3 月に大阪司教区で叙階を受けた 2 人もそのメンバーです。

さて、これからの話ですが、8 年前と比べて共同体が立派になっていることを感じ、維持発展できるかと自分に問いかけています。前任の神父方の努力と信徒の協力によってできたものだと思います。

このイースターの典礼を見ても、協力体制が整っていて、裏方の働きによって支えられている、生かされている共同体でした。私の力だけでは維持していくことで精いっぱいでしょうが、神様の導きと皆さんの協力によってよりよいものとなるよう働きます。どうぞよろしく願いいたします。

まだ話しかけて頂いても、記憶を思い起こしながらお話しています。それはとても大変な作業です。それから、日本語をもう一度勉強し直さなければと思っています。



り、多くのボランティアが右近ゆかりの地のガイドとして活躍されていて、昨年1年間で各地から40団体700名の巡礼者を受け入れたそうです。教会の信徒の方の説明を聞いた後、高槻教会から9班に分かれて、教会のボランティアガイドの方の案内で市内の右近ゆかりの地を回りました。

私にとって今回の巡礼の旅は、高山右近の人柄、信仰の深さを知る上において良い勉強になりました。  
(蛭田)

～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～

### 『片柳司祭送別会』(4月13日)

4月13日「枝の主日」のミサの後、茶話会の形式で、片柳司祭の送別会が行われました。企画、運営は地区役員会(各地区の地区長及び副地区長並びに各ブロック長で構成)が行いました。

送別会では評議会議長挨拶、片柳司祭のお話、教会学校の子供たちの歌・スライドショー、感謝カードの贈呈などが行われました。教会学校のリーダーから卒業証書が送られるサプライズもありました。

準備など開催にご協力いただいた皆様お疲れ様でした。手作りのケーキなどをお寄せ下さった皆様、ありがとうございました。

片柳司祭のブログによると、無事宇部カトリック教会に4月21日引越されたと記されていました。  
(地区会 大橋)



～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～．．．～

### 『聖木曜日 洗足式』(4月17日)

香部屋には典礼奉仕者が奉仕の前に捧げる祈りの言葉が貼ってあります。その中に「イエスは、最後の晩餐で弟子たちの足を洗い、大切な愛の模範を残して下さいました。」とあります。

今年の聖木曜日の典礼の中の洗足式で、被洗足者に予定されていた子どもの一人が熱を出して出席できなくなったため、急遽その代役を命じられました。わたくしにとっても初めての経験だったので、不安と期待を持って、ドキドキしながら式に臨みました。

神父様が膝をついて足を洗って下さった時、先ず注がれたのが冷たい水ではなく暖かかったので、なにかお恵みと愛を感じてしまいました。

ルカ福音書のこの洗足の箇所の上にイエス様のみ言葉があります。「ところで、主であり、師である私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いの足を洗いあわなければならない。私があなたがたにした通りに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」

このみ言葉がしっかりと、足に注がれた暖かい水の感触とともに、心にしみ込んで来るように感じ、典礼奉仕者の祈りの意味がすんと心に落ちるように思いました。忘れられない経験でした。

子どもたちも、どこまで意味が分かっていたか分かりませんが、なにかよきメッセージをいただいたと思いますし、いつかそれが生きて来る事を願わずにはられません。  
(阿部)

## 『聖土曜日 復活徹夜祭』(4月19日) 『復活の主日』(4月20日)

“イースターをみんなで祝って!!”



今年の復活徹夜祭はやや肌寒さが感じられる夕刻“光の祭儀”で始まりました。教会の入り口では、教会案内係の方がろうそくを来られる方に渡しておられました。光の祭儀には建物の外に火が用意されますが施設管理部の方が準備してくださいました。教会の電灯が消されたあと聖歌隊の歌が流れる中、祭壇奉仕者、司祭の行列が登場し「輝かしく復活したキリストの光が心の闇を照らしますように」とろうそくが点火されました。人々は入堂したあとこのろうそくの光をいただきました。“言葉の典礼”では4人の方による朗読が行われました。また、今年は5人の方が洗礼と堅信の儀を受けられました。司祭は松村神父様、片柳神父様、コリンズ神父様にアルフレド神父様も加わり聖体拝領が行われました。司式をされた松村神父様の声がかつともにもまして美しく堂内に響いていたのが印象的でした。このあと、イグナチオホールでは地区会が用意された飲み物やお菓子がふるまわれ、それぞれの場でイースターの喜びを分かちあっていました。

翌日の復活の主日(日中のミサ)には用意された補助椅子でも足りずスペースの許す限り椅子を出して対応し、450人を超える方が来られました。このミサの中では幼児洗礼があり、松村神父様、片柳神父様のお別れのご挨拶がありました。お二人の神父様をお送りすることでもあったのでしょうか参加されたひとの人数も多くいつもより一層充実したミサであったと感じました。

こうして今年もイースターが喜びのうちに行われましたが、聖週間をとおして本当に多くの方のご奉仕がありました。聖木曜日の洗足式では教会学校のリーダーの呼び掛けで昨年初聖体を授かった子供たち6人が参加しました。参加した子どもの一人は「イエスが十字架につけられる前に足を洗って下さったありがたい気持ちが伝わってきた。」と振り返っていました。その他に受難の主日の枝を用意して下さった方、堂内のお花をご用意くださったお花係の方、丁寧に銀紙を巻いてろうそくを準備して下さった方、駐車場の整理を行った地区会の方、朗読奉仕を務めた方、聖週間のミサを行うに当たって事前に準備の集いを持って打ち合わせを行い、聖週間ミサ当日には19:00のミサに備えて、17:30頃からリハなどの準備をされた祭壇奉仕者や先唱者、聖歌隊、オルガニストの方など、その他にも書ききれないほどの方が心一つにしてイースターに向けてご奉仕して下さいました。こうした典礼を支えて下さった多くの方に感謝!! 主はみなさんとともに、また、それぞれに赴任される神父様とともに。



(典礼部 河野)

### <受洗の喜び>

皆様のお力添えにより洗礼を受けさせて頂き感謝しております。

カトリックに向かうきっかけは、長く信者として暮らして来られたご夫妻とのおつき合いにありました。人のための努力を惜しまない素敵な生き方に感化を受けました。

そして、おつき合いの中でゆっくりこの日に向かって準備してきたように思います。ここまでに時間がかかりすぎたと思いますが、これからは聖書に書かれている大切な教えを学びながら感謝の気持ちを大切に生きて行きたいと思っております。

皆様、どうぞよろしくお導きくださいませ。よろしくお願ひ申し上げます。

(モニカ 有澤)



復活の主日のミサの中で、娘が洗礼を授かりました。

娘が誕生してからいろいろなことが重なり、なかなか娘の受洗のタイミングを逃しておりましたが、青年会時代からお世話になっていた片柳神父様が宇部教会に転任されるということをお聞きした時に、ふと神様から背中を押されたような気がし、気付いた時には片柳神父様に娘の洗礼のことをお願いしておりました。

片柳神父様が復活の主日のミサまで六甲教会におられましたので、復活の主日のミサに娘の受洗が出来たことは、家族にとって大きな喜びとなりました。

(父 ラファエル 千原)

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

## 『第11回祈りと音楽の集い イースターチャント』(4月20日)

「イースターという大変喜ばしい機会に歌わせて頂き、心から感謝しています。お越し下さった皆さま、お世話になった皆さま、本当にありがとうございました。

パイプオルガンの設置から、聖歌隊の結成、オルガンメディテーションの開催などを、いつも見守り援助して下さった松村神父様、素敵な写真やFacebookで応援して下さいました片柳神父様が異動されるということで、今までのメディテーションの事が色々と思い出され、胸がいっぱいになりました。そのせいか、いつにも増して気持ちも気合いも入っていました。また、オルガン演奏、バロックヴァイオリン・ヴィオラ・ダ・ガンバの心地よい演奏を聴きながら、色々なことに思いを巡らせていました。

4年前、私は過労のため心身ともに調子を崩してしまい、歌うのが辛い状態でした。そんな時、ある教会での行事で三浦さんに、「歌って頂けますか？」とお声をかけて頂き、何とか無事歌うことが出来ました。そのようなことが何度か続き、それがきっかけで、私は歌ってもいいんだと思えるようになりました。

その後オルガンメディテーションが始まり、自分の心身の状態と相談しながら新しいことにも挑戦し、周りの皆さまに支えられて、私なりに一步一步進んでいくことが出来ました。

私にとって六甲教会はホームグラウンドです。小さい頃からお世話になっている皆さま、メディテーションを通してご縁ができ、以降お世話になっている皆さま、聴きにきて下さるお客さまにいつも温かく助けて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。そのお陰で、自分の力以上のものを出させて頂いていると何度も実感しています。

私たちが音楽を奏でることで、心穏やかになって頂いたり、感動して頂いたり、色々思いを巡らせて頂くことは、本当に有難いことですし、励みになっています。

オルガンメディテーションは、4月より「祈りと音楽の集い」と名前を変えて再出発しました。充実した集いになるようこれからも頑張りますので、温かいご支援をどうぞよろしくお願い致します。本当にありがとうございました。(浅野)





《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📖 三日月会

5月19日(月) 14:00 ミサと懇親会

📖 宣教部

5月25日(日) 部会

📖 教会学校

5月25日(日) 遠足  
5月31日(土) お休み・リーダー研修会

📖 広報部

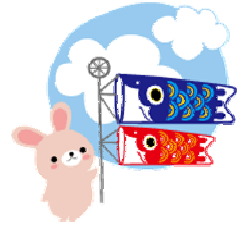
5月31日(土) 教会報6月号印刷

📖 地区会

5月25日(日) 11:20 役員会②

📖 施設管理部

5月25日(日) 部会



《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

5月10日(土) 10時

炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、配食や、おじさん達のお話し相手だけでもOKです。

5月15日(木) 14時

ベタニアの集い(イグナチオホール) ミサと茶話会

5月18日(日) 10時ミサ後

ふれあい広場(イグナチオホール) お弁当・手芸品等の販売

5月23日(金) 9時30分

ともしびケーキ作り(イグナチオホールお台所)

★宣教部より★

「宣教部主催 2014春の黙想会」

テーマ; 新しい世界に生きる —マリア様とともに—  
日時; 5月24日(土) 午前10時～午後4時(午後3時よりミサ)  
場所; 六甲教会イグナチオホール  
\*今回は生徒研修所ではありませんのでご注意下さい  
指導司祭; ジョン・オマリー神父  
対象; どなたでも  
参加費; 無料  
\*昼食持参 お茶準備します \*当日参加歓迎  
問い合わせ先; 六甲教会事務局 Tel. 078-851-2846



★音楽チームより★

「第12回 祈りと音楽の集い ～聖霊降臨を前に～」

日時: 2014年6月1日(日) 14:00 場所: 主聖堂

東京からエヴェルト・ヘンゼラー氏(時津ハインツ神父)と大津磨由美さんのリコーダー・デュオをお招きして、初夏の1日にふさわしい、さわやかな音色をお届けいたします。

エヴェルト・ヘンゼラー氏はイエズス会士であり、エリザベト音楽大学で長く教鞭をとっておられた音楽学者で、リコーダー奏者です。今回はお弟子さんの大津磨由美さんお二人でいらしてくださいませ。(音楽チーム 三浦)



## ★墓地っこたより★

お墓参りは気持ちがいい

4月7日は月曜日で長嶺墓地は閉門でした。しかしお天気は良いいし、4月8日のお釈迦様の誕生日前ということもあってかなり多くの墓参客がありました。

殆どは月曜日のお休みを知らない方々の方でした。お墓の手前から車が渋滞してしまいました。閉門の手前で行き先を阻まれた車がUターンをしていますが、狭い道なので思うようにいきません。そんな時どこからとなく降りてきた方が車の誘導を始めました。ある方は後続車に事情を説明されていました。そのために罵声やクラクションの音はなく、逆に何か暖かい雰囲気でした。やはりお墓参りという特別な気持ちが漂っていたのでしょう。

ところで、5月中旬まで墓地内の通路の全面舗装工事をしています。足元にはくれぐれもお気をつけてください。

~~~~~

## 《 図書室からのお知らせ 》 2014年4月に入った図書から

☆ ON HEVEN AND EARTH — Jorge Mario Bergoglio Abraham Skorka  
Pope Francis on Faith, Family, and the Church in the twenty-first century

☆ Pope Francis — Mathew E. Bunson

これらのパパ様の本のほか、10数冊のヘンリーナウエンの著作(英文)や、哲学神学に関するものなど多くの本を、片柳神父様から頂きました。新しい任地(宇部・小野田)での、恵み豊かな更なるご活躍を祈っております。

☆ キリシタン 迫害と殉教の記録 — 上・中・下/全3巻 フリープレス

私たちの郷土で、信仰の火はこう守られた！ 全国津々浦々への宣教はいかに花咲き、いかに踏みにじられたか。25人の史家が記録した不朽の名著「キリシタンの愛と死」を遂に完全復刻！ 「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです」(ヨハネ・パウロ2世)。



## みんなの広場

### 新たなもの

新たに叙階された司祭が遣わされてきた。何をしているのかと思っていたら大地震、すごい神父が遣わされてきたと喜んでいたら第三修練に出てそのまま鉄砲玉になってしまった。その「鉄砲玉」が帰ってくる、嬉しかった。それからこれまでのこと、今はただ「ありがとうございます」の一言しかない、課題は身をもって教えてくださったとおりに自分がやらなければならないということだが。

この教会は小教区の教会として設けられたものではなく、学校の宣教、教育活動の一端として設けられたものが戦後生徒やその家族の信者が急増し、さらにそれらを介して学校とは直接関係のない信者も急増して司牧の必要に迫られ小教区を設置しようとしたものだ。だが近隣の教会、特に住吉教会の神父たちは猛反対。今、援助修道会があるところは田口司教が将来教会を建てつもりで取得した土地であったと聞いているが、同じ理由で司教も志を実行できず長年草ぼうぼうの空き地だった。ようやく当初の計画を大幅に縮小して小教区が設置された。当時この小教区の管轄区域の半ば以上は「山」であった。イエズス会に委託されたこの教会にはイエズス会の豊富な人材が入れ替わり立ち替わりやってきた。彼らは既にある何かを引き継ぐのではなく、めいめい自分のしたいことに専念し、その殆どは短ければ1年未満、2年か3年もすれば「後は野となれ山となれ」と出て行ってしまった。この時代はこの教会が最も生き生きとしていた時代であったと思う。同時に大阪教区の中でも特にガタガタの教会だった。今



の教会はこのようなものの蓄積だと言ってもよい。

4月の教会報に松村神父様の「何でも知っとこ 特別おまけ版」があった。何人がじっくり読んだかは知らないがコピーをファイルに取り込んだ。

周囲の社会は刻々新たになっている。常に新たなものを積み上げ続けなければ遺跡になってしまう。既にあるものではなく我々が今、これから嘗てなかった何を積み上げなければならないか。一人一人の課題である。「歩調とれ、右向け右」が何をもたらしたかは歴史が記録を残している。

“第二バチカン公会議に端を発する新たな刷新の息吹は、教会史の中で聖職者、修道者、信徒といういつの間にか区切られた枠を取り除いて、もう一度、初代教会に戻って同じ「神の民」としての全体像を取り戻し、キリストとその花嫁たる教会の愛のダイナミズムによって歩むありかたを促している”

松村神父様の「遺言」ではない。植えてここに残していかれた伸びる「苗」である。一人一人が水をかけなければ枯れてしまう。

5月、「聖母聖月」とは物々しい。マリア様のこと、要するに「ママ」の月。ガキどもはしてはならないこともお構いなし、「ママ、手をつないで放さないで！」

(ヨハネ 三好)

## カトリック入門・養成講座・聖書研究などのご案内

2014年 5月 ～ 9月

| 曜日 | 週    | 開始時刻  | クラス名        | 対象    | 担当者    | 場所       | 開始日        |
|----|------|-------|-------------|-------|--------|----------|------------|
| 日  | 第1・3 | 11:00 | キリスト教入門     | 欄外注★1 | コリンズ神父 | 会議室5     | 5/18       |
|    | 毎週   | 11:00 | 中高生会(欄外注★2) | 中高生   | リーダー   | 中高生会室    | 5/11       |
| 火  | 第1   | 10:00 | 聖書を読む       | どなたでも | コリンズ神父 | 会議室1     | 6/3        |
|    | 第1・3 | 10:30 | キリスト教入門 A   | どなたでも | 高山神父   | 会議室4     | 5/20       |
|    | 第2・4 | 10:30 | キリスト教入門 B   | どなたでも | 高山神父   | 会議室4     | 5/13       |
| 水  | 第1・3 | 10:00 | 福音のよろこびを生きる | どなたでも | こいずみゆり | 会議室5     | 5/14<br>★3 |
|    | 第2・4 | 10:00 | キリスト教入門     | どなたでも | コリンズ神父 | 会議室3     | 5/14       |
| 木  | 第2・4 | 14:00 | みことばを聴く     | どなたでも | コリンズ神父 | 会議室1     | 5/8        |
|    | 第2・4 | 19:00 | 聖書による信仰入門   | どなたでも | 吉村信夫   | 信徒会館     | 5/8        |
| 金  | 第2・4 | 10:30 | 聖書研究(英語)    | どなたでも | コリンズ神父 | 会議室5     | 5/9        |
|    | 第2・4 | 19:00 | 祈りの集い       | どなたでも | 高山神父   | 信徒会館     | 5/9        |
|    | 第1・3 | 19:00 | 福音のよろこびを生きる | どなたでも | こいずみゆり | 三ノ宮パウロ書店 | 5/16       |
| 土  | 第1～4 | 14:30 | 教会学校        | 小学生   | リーダー   | 信徒会館     | 5/10       |

★1 対象:入門志願者のみ。但し、紹介者同席可。 ★2 中高生会は学期中のみ

★3 5月のみ第2・4 6月から第1・3

場所・天候などにより、休講になる場合があります。事前にご確認ください。

<原稿募集!!>

シリーズ「忘れないで！東日本の被災地から」への原稿を募集しています。被災地でのボランティア活動に限らず、遠く神戸からの支援活動や被災地への思い等、皆さまからのご寄稿お待ちしております。また、「みんなの広場」へのご寄稿もお待ちしております。(広報部)

|                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教会報6月号の発行は、6月1日(日)です。<br/>編集会議5月25日(日)です。<br/>記事原稿は、5月18日(日)正午までに信徒会館<br/>受付へご提出願います。(広報部)<br/><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> | <p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会<br/>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21<br/>電 話 078-851-2846<br/>F A X 078-851-9023<br/>発行責任者 アルフレド・セゴビア<br/>編 集 広 報 部</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|